様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ３０ 年　 ６ 月 ２０ 日現在

機関番号：３２７１０
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2013～2017
課題番号：２５３７０２４３

研究課題名（和文）文献学的方法による平安時代仮名文学の定説再検討と新見創出

研究課題名（英文）A Study of the Heian Period Kana Literature Based on philology

研究代表者
久保木　秀夫（KUBOKI, Hideo）

鶴見大学・文学部・准教授

研究者番号：５０３１１１６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,600,000円

研究成果の概要（和文）：　平安時代の仮名文学作品は、今日様々に活字化され、読まれてきている。しかし活字化に際しての、底本選定に関する従来説には、不適切なものが多かった。結果、善本ではない古典籍が底本に採用されたり、同じ古典籍が何回も底本とされ続けたり、重要他伝本が忘れ去られてしまったり、という弊害が生じていた。
　本研究は、それら従来説を批判し、調査研究し直して、平安時代仮名文学の伝本や本文に関する新たな知見の提示を試みたものである。結果、古今集・発心和歌集・二十巻本類聚歌合・伊勢物語・源氏物語・栄花物語・枕草子ほかの伝本や本文に関し、重要資料を発掘・再発掘し、評価・再評価して、学術論文等に結実させていくことができた。

研究成果の概要（英文）：In the Heian period of Japan, literature written in pseudonyms was written. They are currently being read in print. However, when being reprinted, there was a mistake in previous studies on which classic nationality is to be based. As a result, materials of poor quality were adopted, the same material was used many times, and important material was forgotten.
Therefore, in this research, we criticize the conventional theory on those materials and texts. It also tried to present survey and research again and to present. As a result, we were able to excavate and re-evaluate many important materials. For example, kokin-wakasyu, Hosshin-wakasyu, Nijikkanbon- ruiju-utaawase, Ise-monogatari, Genji-monogatari, Eiga-monogatari, Makura-no-soshi,etc.
And We published many thesis on them.

研究分野：日本中古中世文学

キーワード：平安文学　仮名散文　物語文学　和歌文学　古典籍　古筆切　文献学　書誌学

１．研究開始当初の背景

研究代表者（久保木）及び研究分担者（高田）のもとには、長年にわたる原本類・古文献類の博捜によって、平安時代仮名文学に関わる、学界未知・未認識の文献資料が厖大な量、蓄積されるに至っている。かつ、それらの資料を徹底的に調査研究していく過程で、平安時代仮名文学についての従来の文献学的研究成果には、想定以上の不備や不足、誤解や誤謬があったという事実が浮き彫りになってきた。具体的には次のようである。

(1)伝本の所在調査の不徹底、もしくはその時点での未発見等により、重要伝本が研究対象から洩れている事例がある。

(2)既知の伝本であっても、調査研究の不徹底により、資料的価値が見落とされ、誤解されている事例が多い。

(3)現存伝本中から最善本を選出していく際の論証過程に疑問のある事例が多い。

(4)流布本や古写本等の陰に隠れて、今日顧みられなくなっている異本が多い。

(5)江戸時代整版本というだけで省みられなくなっている善本も散見される。

例えばこうした事例に少なからず接するようになった結果、従来の文献学的研究成果の多くについて、大幅な見直しが不可欠であると判断するに至ったという次第である。

２．研究の目的

以上のような背景を踏まえつつ、研究代表者・研究分担者が収集してきた膨大な量の資料と、長年かけて蓄積してきた学識・知見とを併合しながら、平安時代仮名文学に関する文献学的研究成果を一度総合的・徹底的に批判再検証し、のみならず新たな説をも提唱し、必要に応じて解釈・注釈をも示し、研究の基盤を再構築することを目的として、本研究を計画した。

本研究の核となるのは、平安時代仮名文学に関する、

(1)既存の文献学的研究成果の徹底的な批判再検証

(2)学界未知・未認識の古筆資料・古文献多数を最大限に活用した厳密精緻な書誌学・文献学的研究の推進

(3)学界既知ながら今日顧みられることの少ない多数の異本の再評価

(4)散佚歌集・散佚物語等に関する新出資料の紹介と考察

などである。

作品としては、古今集・紫式部集・二十巻本類聚歌合・土左日記・伊勢物語・大和物語・源氏物語・栄花物語などや、その他散佚歌集・散佚物語など、また場合によって鎌倉時代以降の仮名文学なども対象として取り上げていく。

本研究では、１作品・１ジャンルといった狭い括りに捕らわれない、多岐に亘る研究成果を具体的に提示していくことが可能である。また文献学・書誌学という、言わば方法論的な立場を前面に押し出しながら、多くの作品の「定説」を総合的・横断的に徹底検証していくため、作品研究の立場からだけでは見落とされてきた様々な問題点をすくい上げ、かつ解決していくことも可能である。

本研究によって、平安時代仮名文学に関する文献学的研究の従来説や定説は、少なからず覆され、新たに導き出される見解によって、飛躍的に進展していくはずである。

３．研究の方法

初年度においては、まずこれまでに収集してきた古筆切の出典・本文を徹底的に調査し直す。と同時に、平安時代仮名文学に関する既存の文献学的研究成果を徹底的に再検証し、再調査を要する重要伝本をリストアップする。そのリストに基づき、可能であれば原本を実地調査して書誌情報を採取した上で、複写物に基づきながら文献学的調査研究を進める。併せて関連する古文献を総点検し、成立・伝来・享受に関する徴証や、散佚文献の逸文等、書誌学・文献学的研究を強く支える諸情報を抽出していく。

以上によって得られた諸資料・諸情報を総合的に考察し、既存の学説を覆す結論が得られた場合には、学界・社会に積極的に報告していく。

次年度以降も、基本的にはこうした調査研究と、報告その他を通じての研究成果の社会還元を繰り返していく。

なお、これまでに研究代表者が取得してきた科研費複数の研究成果の一部である『散佚歌集切集成　増訂第二版』のさらなる増補や、「古筆切所収情報データベース」へのデータの追加、さらに新たに「散佚物語切集成」といった翻刻集成の作成をも目指したいと考えている。

４．研究成果

平安時代仮名文学に関する、従来の文献学的成果を批判的に再検討することを第一の目的とする本研究においては、対象とする作品や原本資料・関連資料も自ずと多岐に亘り、かつ大量となってくる。

そのような中でも、とりわけ重点的に取り

組んだのは、伊勢物語の定家本・非定家本の伝本・本文群、及び、平安時代成立・書写の二十巻本類聚歌合と、伊勢物語とであった。いずれにおいても、先学により個別詳細な成果が積み重ねられてきたものの、それらの論理の根幹部分に少なからぬ問題のあることを突き止めたため、それぞれ原本資料そのものに立ち戻り、文献学・書誌学的方法による調査研究を推進していった。結果、伊勢物語ならば個々の伝本・本文の生成や性格の把握、また類聚歌合ならばその成立過程、などに関して、従来説とは大きく異なる見解を部分的ながらも提示し得た。それらの調査研究はなお途上であるので、今後も継続していく所存である。

同様に注力して取り組んだものとして、古今集・新古今集、発心和歌集などの私家集、天喜三年物語歌合、南北朝期百首歌と足利義尚和歌打聞、源氏物語・栄花物語、枕草子、未詳歌集・未詳仮名散文の断片資料、蔵書・書籍目録類、典籍に関する重要な記載を有する古文献類、等々が挙げられる。それらについても、重要度や注目度などを勘案しつつ、口頭発表・論文化、また講演会などで成果を公表し、かつそうした研究活動を通じ、研究成果の社会還元にも務めてきた。

本研究によって新たに収集し得た資料や、見出し得た問題点、それに対しての見通しや結論などで、いまだ（主に時間的な制約により）公表できていないものも、少なくない量残されている。今後、できる限り速やかに、論文化等を進めていきたい。

なお本研究では、作品名の判明しない未詳物語の古筆切について、集成・翻刻を行う計画を立てていた。しかしここ数年における、web 検索の性能の飛躍的な向上により、これまで調べようのなかった未詳物語の本文についても検出できるようになり、結果、「未詳物語切集成」のような形にまとめる程の分量では（少なくとも現時点では）なくなった。と同時に、当初作品名未詳とせざるを得なかったそれらの中から、珍しい仮名散文の作品の古筆切がいくつも見出されていくこととなった。まったく嬉しい誤算であった。うち西行物語や古今著聞集、仮名書き往生要集など数点についても、すでに論文化を果たしている。が、ほかにも複数存しているので、既述分と同様に、成果として順次報告していきたい。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 17 件）

①久保木秀夫、『伊勢物語』小式部内侍本再考、査読なし、国文鶴見、52 号、29-56、2018

②久保木秀夫、『伊勢物語』武田本再評価、依頼あり、文学・語学、221 号、105-116、2017

③久保木秀夫、『永徳百首』正親町三条実継詠・草稿本一巻及び清書本断簡、依頼あり、語文、158 輯、68-81、2017

④久保木秀夫、『枕草子の古筆切』、依頼あり、日本文学研究ジャーナル、3 号、103-110、2017

⑤久保木秀夫、西行・寂蓮の「新出」歌？―伝光顕画・伝後光厳院筆『西行物語絵巻』断簡―、日本文学研究ジャーナル、2 号、117-123、2017

⑥高田信敬、真名序のかたち―了佐切の場合―、査読なし、鶴見日本文学会報、80 号、1-3、2017

⑦久保木秀夫、『発心和歌集』選子内親王作者説存疑、査読あり、中古文学、97 号、76-86、2016

⑧久保木秀夫、『新古今和歌集の新しい歌が見つかった！』その後－補遺一点・新出二点、リポート笠間、査読なし、60 号、26-28、2016

⑨久保木秀夫、『本朝書籍目録』有注本・披見伝本一覧稿、査読なし、国文鶴見、50 号、22-43、2016

⑩高田信敬、源賢の沈淪―後拾遺和歌集贄中―、査読なし、国文鶴見、50 号、11-21、2016

⑪久保木秀夫、『貫之集』伝寂然筆村雲切と藤原定家筆断簡、依頼あり、かがみ、45 号、1-27、2015

⑫高田信敬、地名「かへのやしろ」について―『貫之集』管窺―、査読なし、国文鶴見、49、24-31、2015

⑬久保木秀夫、定家本・青表紙本『源氏物語』は、どれだけ実際に読むことができるのか?、依頼あり、中古文学、94 号、5-13、2014

⑭久保木秀夫、二十巻本類聚歌合成立試論、査読あり、和歌文学研究、108、14-25、2014

⑮高田信敬、橘道貞の下向―『赤染衛門集』管見―、査読あり、国語国文、82 巻 6 号、19-29、2013

⑯久保木秀夫、『伊勢物語』皇太后宮越後本の性格、査読あり、国語国文、82 巻 9 号、1-18、2013

〔学会発表〕（計５件）
①久保木秀夫、『発心和歌集』選子内親王作者説存疑、中古文学会・2015 年度秋季大会

②久保木秀夫、定家本・青表紙本『源氏物語』は、どれだけ実際に読むことができるのか？、中古文学会・2014 年度春季大会

③久保木秀夫、二十巻本類聚歌合成立試論、和歌文学会 2013 年度大会

〔図書〕（計 10 件）
①久保木秀夫、『本朝書籍目録』の伝本と分類、依頼あり、『生活と文化の歴史学９　学芸と文芸』、153-181、竹林舎、2016

②久保木秀夫、天喜三年「六条斎院禖子内親王家」物語歌合・私見、依頼あり、『考えるシリーズⅡ③知の挑発　平安後期　頼通文化世界を考える－成熟の行方』、379-405、武蔵野書院、2016

③久保木秀夫、本文校訂のモラル―特に底本選定と「取り合わせ」問題に関して―、依頼あり、『新時代への源氏学７　複数化する源氏物語』、276-301、竹林舎、2015

④久保木秀夫、『栄花物語』主要伝本類概説、依頼あり、『王朝歴史物語史の構想と展望』、129-159、新典社、2015

⑤久保木秀夫・中川博夫、『新古今和歌集の新しい歌が見つかった！ 800 年以上埋もれていた幻の一首の謎を探る』、3-42、笠間書院、2014

⑥久保木秀夫、『古今集』高野切の伝来と由来、依頼あり、『考えるシリーズⅡ①知の挑発　王朝文学の古筆切を考える－残欠の映発』、271-292、武蔵野書院、2014

⑦久保木秀夫、伝藤原家隆筆『古今集』残簡及び断簡―新出異本歌を含む鎌倉時代写本―、依頼あり、『国文学叢録―論考と資料』、211-251、笠間書院、2014

⑧高田信敬、権帥橘公頼―『貫之集』登場人物素描―、依頼あり、『国文学叢録―論考と資料』、24-37、笠間書院、2014

〔その他〕
ホームページ等
古筆切所収情報データベース（国文学研究資料館「電子資料館」のうち、http://base1.nijl.ac.jp/~kohitu/ ）

講演
①久保木秀夫、伊勢物語　幻の「小式部内侍本（狩使本）―その復元はどこまで可能か？―、第 144 回鶴見大学図書館貴重書展+中古文学会 50 周年連携企画、2016

②久保木秀夫、古筆の魅力、推理の楽しさ―古典文学・藤原定家・明月記など―、林原美術館・企画展特別講演会「すみいろ―古筆・宸翰・大名の書」、招待、2016

６．研究組織
(1)研究代表者
久保木　秀夫（KUBOKI,Hideo）
鶴見大学・文学部・准教授
研究者番号：５０３１１１６３

(2)研究分担者
高田　信敬（TAKADA,Nobutaka）
鶴見大学・文学部・教授
研究者番号：００１２４１９９

(3)連携研究者
なし

(4)研究協力者
舟見　一哉（FUNAMI,Kazuya）